

《今朝の聖書から》10章17~24節が開かれます。10章の初めから“伝道者への励まし”そして“福音が拒否されたときには、如何に傷つかないか”という事を教えられた後、17~20で“伝道の勝利”について語られるのです。

“神の国が、時間的にも距離的にもどんなに近いか”ということを知っていても、肉の目には“神の国”が見えないことがよくあります。しかし、悪の力と誘惑は、いよいよますます、神の国と正面からぶつかるようになります。誰でも知っているように、反対勢力でなければ、別にぶつかり合う事もないということになります。だからこそ、イエス様のみならず、弟子達によって福音が述べ伝えられたときに10~15節に記されている事が起こるのです。イエス様は、弟子達によっても御国が述べ伝えられることを“素晴らしいこと”とされ、神に感謝をされたのです。しかし“そして、その町にいる病人をいやしてやり、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。しかし、どの町へはいつでも、人々があなたがたを迎えない場合には、大通りに出て行って言いなさい・・・”と9~10節にあるように、どんなに近いものでもそれに与りたい、という思いが絶対に必要なのです。思い出してみましょう、私たちが教会に導かれるまでには、多くの試みを乗り越えてきているのですが、その事の意味、神の国に加えられたことを喜ばなければ、あたかも“優秀な信仰者”であるかのように誇ることになってしまうのです。イエス様は旧約聖書から“その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みのある時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます(ダニエル書12:1)”などとこの事が、多くの箇所にある事を弟子達に思いださせられたのです。聖書の次の箇所21~24節は、イエス様の祈りに始まり、神の国を受けるにふさわしい者について語られます。23~24節に“祝福の祈り”がある事を私達も喜びたいと思います。旧約聖書全体が、イエスキリストを指し示していると言っても良いほどに、預言者達はイエス様のやってくることを疑いませんでした。どんな確証があるのでしょうか。それが聖霊の力であることははっきりしています。私達も、不安になったとき、“もし聖霊に聞くことが出来なかったら”と仮定してみましょう。聖霊と対話している事、神の言葉を聞いている事がはっきりと分かります。

週報

2007年 6月 3日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸